

共に学び、共に創る未来

～ASEANとの協働から拓くグローバル探究と卒業後へのインパクト～



筑波大学附属坂戸高等学校

建元 喜寿

本日の発表内容

- 筑坂のこれまでの歩み
- WWL(グローバル人材育成強化事業)での構想
- 高校・大学・企業が連携した海外研修の開発
- 海外連携校と実施する国際協働探究とユース会議
- SGH・WWLで海外研修を経験した卒業生のその後
- 今後の構想

筑坂のこれまでの歩み

- ASEAN諸国との連携は15年以上継続
 - 「相互の学び合い」と「社会との接続」を重視
- 
- 2010年からインドネシアの高校と協働プロジェクトを開始(トヨタ財団アジア隣人プロジェクト)
- 
- 2014年よりSGH指定、インドネシアでの研修を単位化し、タイ、フィリピンの高校とも連携協定締結
 - 2019年よりWWL拠点校。アジア学院における国内版国際フィールドワークを開発
 - 2024年よりWWL2度目の拠点校

森林の多面的機能を小学生に伝える



日本とインドネシアの高校生の合同チームで環境教育の出前授業@小学校

WWL(グローバル人材育成強化事業)の構想

アジア版エラスムス計画実現に向けた 高大接続型ネットワーク構築

- 連携国：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア
- 連携機関：SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)
APP社(製紙会社)、アジア学院
- 活動例：国際協働探究、海外でのシンポジウム、
高大合同海外研修、国際教育実習

筑波大学WWL(ワールドワイドラーニング)コンソーシアム グローバル人材育成強化構想概要

開発構想「アジア版エラスムス計画実現に向けた高大接続型ネットワーク構築」

設定したグローバル課題に基づく
連携先とのプログラム開発



当事者性・責任・気候変動・森林・食・農



APP

企業とSDGs

SDGsをテーマにした国際現場研修と
グローバルキャリア選択



世界との共生
コミュニティ構築

アジア・アフリカの地域リーダーとの交流による
地球市民としてのグローバルマインド育成

拠点校における強化事業

オースタムギャップを伴う
2学期制導入

海外校との
協働探究プログラム開発

海外校での
高校生国際セミナーの共催

学びたい場所・探究したい場所・活動したい場所に
自ら羽ばたける人材

世界のあらゆる人と壁無く協働し共生していける人材

共創型グローバル人材
育成を目指す外部連
携

SEA-Teacherを
日本の学校へ普及

東南アジア教育大臣機構を通じた
域内の大学・高校とのネットワーク構築



筑波大学
University of Tsukuba

アセアンと日本の高校生
大学生・教員の流動化促進

連携先リソースの
共有による他国展開

海外校と日本の
高校とのハブ

筑波のコアコンピタンスに基づく
AL-NETWORKの形成

SEAMEO共同機関
(Affiliate Member)参画
(国内で唯一)

国際教育実習(SEA-Teacher)の
日本国内で初の実施



管理機関の将来構想

国内における
先取り履修制度の拡充

JV-Campusによる海外連携校も
含めたプログラム提供

アセアン諸国の大学との
先取り履修制度の検討

SEAMEO(東南アジア教育大臣機構)と連携した 国際教育実習(SEA-Teacher)



インドネシア教育大学から来日した
国際教育実習生の授業の様子

高校・大学・企業が連携した海外研修の開発

インドネシア・スマトラ島における グローバル企業と連携したプログラム開発

- 渡航先:インドネシア リアウ州プカンバル
- 連携機関:APP社(製紙会社:日本に支社あり)
Belantara Foundation
- 参加者:筑波大学「国際農業研修Ⅶ履修者」、
筑波大学附属坂戸高等学校、
愛媛大学附属高等学校、メディア関係者

大学生×高校生混成チームで渡航











自分の日常生活とインドネシア
の森のつながりを考え始める



国際協働探究と国際セミナーの実施

- 各国の高校で取り組まれている探究活動のテーマ収集と共有(SDGs関連、社会課題等)
- 1年間の学校暦の情報共有とプログラム開発

インドネシア: 高大接続科目としての海外研修を企業と連携し開発
複数の日本の高校も合同で参加する

タイ: カセサート大学附属高等学校、愛媛大学附属高等学校と
バンコク郊外の有機農場で合宿型研修を実施予定

マレーシア: サバ大学およびその連携高校と、コタキナバルに
おける生物多様性保全をテーマにした研修を実施予定

フィリピン: フィリピン大学附属ルーラル高校と探究成果合同発表
会の開催可能性を検討中



@インドネシア・ボゴール農科大学

第1回インドネシア日本
SDGsユース国際セミナー



@栃木県アジア学院
withインドネシア・コルニタ高校

卒業生の追跡調査

- ・ 高校時代にインドネシアの海外研修に参加した約20名の卒業生にインタビュー
- ・ 参加経験が進路選択等に与えた影響を調査

・「コミュニケーションの壁」、「他者との協働の壁」、「国・人種への壁」の3つの壁が、インドネシア人との相互作用の中で消し去られた。



・大学生活においても、自分を大切にしつつ、社会への貢献意識や共生意識をもち続けていた。



・大学選択、大学での学び方、キャリア選択など、中長期的に影響を与えていた。

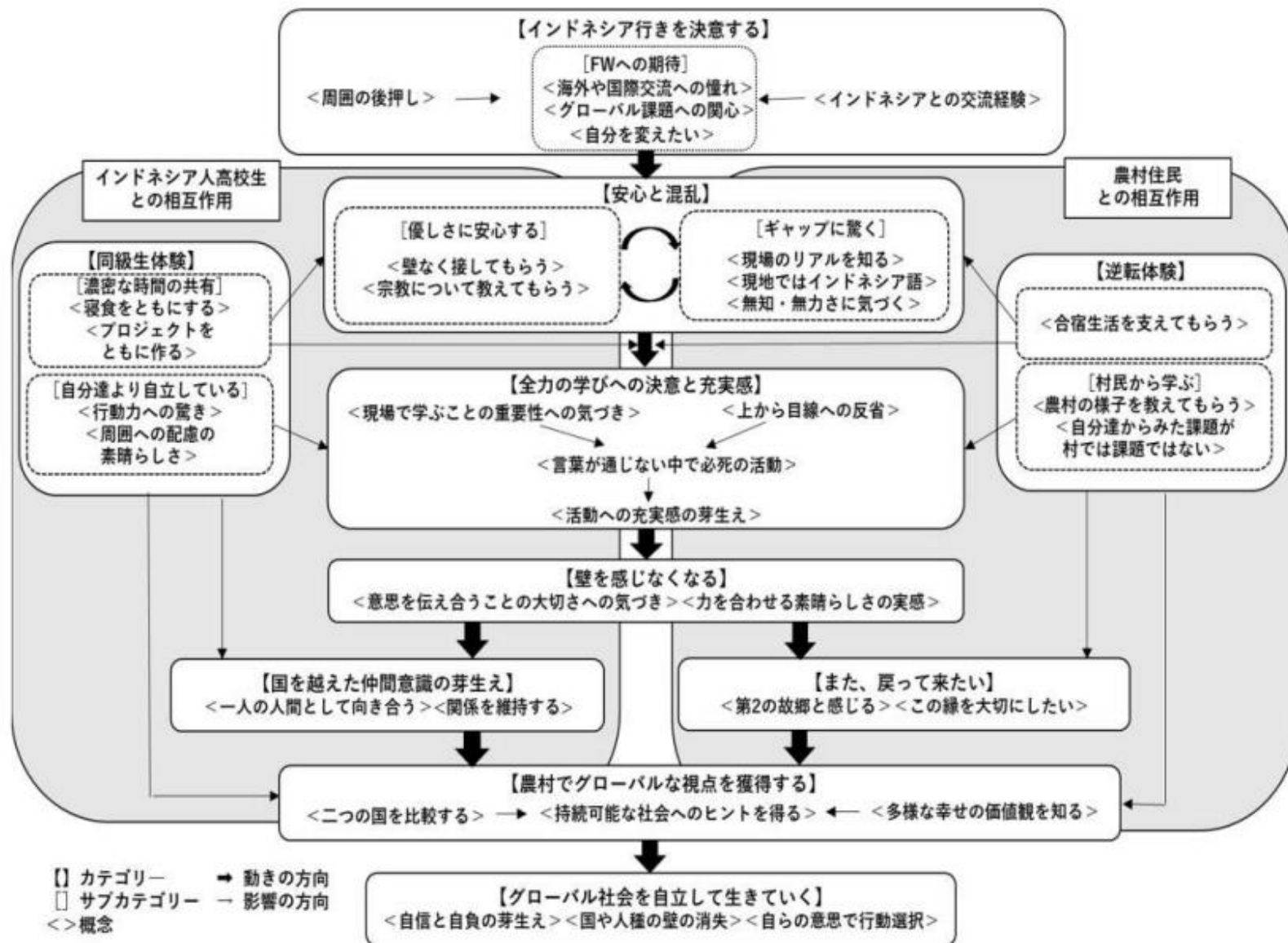


図1 インドネシア農村部における探究学習を通じて日本人高校生が変容していくプロセス

海外研修体験における日本人高校生の変容プロセス：インドネシア農村部におけるフィールドワークに焦点を当てて (建元・大川, 2022)ESD研究5 41-49より引用

・渡航前まで、先進国日本から途上国に支援
することが国際協力と考えていた



・インドネシアで同級生のインドネシア人高校
生の行動力の高さに圧倒されたり、助けよう
と考えていた農村住民に逆に助けられたり、
森のことを教わるといった体験をする。



・国を越えて共に学び共に生きていくことの
大切さに気付く

追跡調査のまとめ

- 1) 高校時代に国際協働型の海外研修を経験することは、大学を選ぶ視野を広げ、自己の進路選択におけるチャンスを拡大させることにつながる。
- 2) 大学入学後も、大学の授業やゼミ活動を自己の経験と合わせて評価する視点や、国内外における積極的な活動へとつながる
- 3) 大学生活において「日本人学生への物足りなさ」や「大学自体への不満」を抱えることもあることもわかった。しかし、その際に、大学の中だけにとどまらず学外にも活動の場を広げ、海外研修プログラムをともにした仲間とも国を越えて、時に支え合いながら、大学生活を過ごしている
- 4) 就職や大学院での研究内容においてもグローバルな展開も含め多様な選択を可能にさせていた

まとめ

- 目的やねらいをもった海外研修を実施すること
→ 渡航先、連携先、継続性
- 複数の高校でリソースを共有すること
→ 生徒のチャンス拡大、学校の負担の軽減
- 高大接続は、高校にも大学にもメリットがある
→ 大学生のキャリア選択にも影響する
- 高校時代に海外研修に行く重要性の再確認
→ 中長期的に影響する

ありがとうございました。

Terima kasih banyak